

# 取組 [1] ダイバーシティ研究環境整備強化

## 1 研究支援員の配置

広島大学に所属する研究者が、妊娠・育児・介護により研究時間の確保が困難になった際に、研究者の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置することで、研究とライフイベントの両立を推進することを目的として2017（平成29）年度から支援を行っている。この制度は同時に、研究支援員にとっても将来についての様々な学びや自身の研究に関わる貴重な経験を得ることができる機会となっている。

### 対象者

本学と雇用契約を結び、本学を主たる研究の場としている大学教員（教授、准教授、講師、助教、助手）及びフルタイム勤務の教育研究系契約職員（特任教員、寄附講座等教員、病院助教、研究員、特別研究員、病院診療医及び共同研究講座等教員に限る。）のうち、次の①～④の申請要件をすべて満たす者

### 申請要件

- ① 妊娠中の者、12歳に達する日以後最初の3月31日までの同居の子を養育している者又は介護認定（要支援認定を含む。）を受けている一親等以内の同居の親族を介護している者
- ② 配偶者がフルタイムで勤務している者、単身者、又は配偶者のいない者  
\*申請者が男性の場合は、配偶者が、大学、大学共同利用機関又は独立行政法人等で研究者としてフルタイムで勤務している者
- ③ 産前産後休暇、育児休業、介護休業、その他休業・休職中でない者（ただし、配偶者のいる者にあつては、配偶者も同様とする。）
- ④ 年間500万円以上の外部資金の採択を受けていない者

### 支援実績

2022（令和4）年6月～11月の実績

#### 利用者性別・役職

	計	教授	准教授	助教・特任助教	その他（研究員等）
男性	1	0	1	0	0
女性	13	1	5	6	1

#### 申請理由

	妊娠	育児	介護
男性	—	1	0
女性	0	12	1

### 支援内容

文献の検索・収集・調査、データ入力・分析、資料作成、データ整理、調査の補助、研究データ解析、統計処理、実験動物の管理、実験材料・器具類の準備・片づけ、実験補助、インタビューのテープ起こし、研究成果の整理、植物の管理および生育調査、サンプリング、関連史料の翻刻・整理とデータ化、等

#### 利用者の声／研究推進における効果（抜粋）

- 育休復帰して以降、就業時間内に様々な作業を行うことがとても困難だったが、支援員制度を利用してからは、膨大な業務を一人で抱え込まなくて良いので精神的にかなり救われ、前向きに取り組めた。（医系教員）
- 業務と育児の合間の時間だけでは不足する部分を研究支援員が十分に補ってくれ、私はデータ解析や考察に充てる時間を確保することができた。研究を継続しつつ、日々の生活も概ね支障なく過ごすことができ、研究支援員制度は直接的に精神的、身体的な負担軽減に繋がった。（医系教員）
- 研究支援員制度を活用することにより、新しいテーマへ踏み出すことができ、研究の幅が広がった。また、研究プロセスに対して分担して行うことができ、研究の質の向上に繋がった。（文系教員）
- 文献の収集・複写、および史料等データの打ち込みが進んだことで、研究対象への理解が深まり、新しい論文を執筆するための前提環境を整えることができた。（文系教員）

#### 研究支援員の声／従事した感想（抜粋）

- 身近な環境・場所での作業が多かったため、時間を有効に活用しながら従事することができた。研究室の先生のもとでの業務のため、わからないことも質問しやすく、有意義に従事することができた。（理系学生（B3生））
- 今回、研究支援員として研究に従事し、研究者が共同研究においてどのような心構えを持ち行っているのかなど、研究を行う上で必要な資質について学ぶことができた。また、研究の構成員としての実感を得ながら、業務をすることができた。（文系学生（M1生））
- 普段どのように先生が研究のデータや資料を収集・作成しているのかを、従事して初めて知ることができた。なかなかできない経験をさせてもらった。（文系学生（M2生））
- 実験手技が上達し、自身が行うことで研究への理解が深まり学びになった。（医系学生（M2生））

## 2 小学校休業期間中の学童保育

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立支援を目的として、小学校の長期休業中(春季・夏季・冬季)に、東広島地区(東広島キャンパス)と広島地区(霞キャンパス)で学童保育(子どもクラブ)を開設している。業者委託により、指導員(委託業者)と学生サポーター(広島大学で教職課程を履修中の学生などを委託業者で雇用)による運営体制をとっている。学内施設等での体験学習(春はハイキング、夏は水辺の生き物の観察やガラスの模様付け体験、冬はしめ縄づくりや焼き芋づくりなど)や屋内・屋外運動支援などを行うことで、本学学生の実習の場にもなっている。

	東広島地区(東広島キャンパス)	広島地区(霞キャンパス)
春季 子ども クラブ	期 間／2022(令和4)年3月28日～4月7日(平日8:00～19:00)	期 間／2022(令和4)年3月28日～4月6日(平日8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童25名 (新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)	保育実績／本学教職員の学童26名 (新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)
夏季 子ども クラブ	期 間／2022(令和4)年7月21日～8月29日 (ただし、8月11日～8月16日は除く)(平日8:00～19:00)	期 間／2022(令和4)年7月21日～8月29日 (平日8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童31名 (小学校1年生から6年生)	保育実績／本学教職員の学童37名 (小学校1年生から6年生)
冬季 子ども クラブ	期 間／2022(令和4)年12月26日～2023(令和5)年1月6日 (ただし、12月29日～1月3日は除く)(平日8:00～19:00)	期 間／2022(令和4)年12月26日～2023(令和5)年1月6日 (ただし、12月29日～1月3日は除く)(8:00～19:00)
	保育実績／本学教職員の学童25名(小学校1年生から6年生)	保育実績／本学教職員の学童22名(小学校1年生から6年生)

### 参加者の声(抜粋)

- 初めての場所でもとまどうことなく楽しく過ごせたようで、とてもありがたかった。
- 先生とのやりとりを楽しそうに話してくれるのが嬉しい。
- いつも開設いただき、とても助かっている。
- 知っている子はいなかったけれど、色々な遊びができて楽しかったとのこと。
- 勉強も教えていただいたり、教えたり、遊びもたくさんで遊んだり、一人で遊んだりと自由度があって大変よかった。コロナ禍でお友だちと遊ぶ機会も少なかったので充実した日々となった。



(二神山ハイキング)



(ガラスの模様付け体験)

## 3 病後児保育利用料補助事業

広島大学の教職員の子(6歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある子。)が病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児保育施設を利用した際に支払った利用料の3分の2を超えない額(10円未満切り捨て)と1,000円のいずれか低い額を、利用料補助として、1人につき、年間16回まで支援している。

令和4年度  
病後児保育利用料  
補助事業のご案内

本事業は、広島県が実施する「病後児保育施設の利用促進に関する条例」に基づき、病後児保育施設を利用する児童の保護者に対し、保育料の一部を補助するものです。

補助対象児童：令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)に病後児保育施設を利用する児童

補助対象施設：広島県が指定する病後児保育施設

補助対象期間：令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)に病後児保育施設を利用する期間

補助対象額：保育料(保育料に消費税を含む)のうち、10円未満は切り捨て、1000円を超えない額

申請期間：令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)に病後児保育施設を利用する期間

申請書類：申請書、保育料の明細書、児童の病状の診断書(医師の診断書)

申請先：広島県教育委員会(広島県教育委員会 児童課)

お問い合わせ：広島県教育委員会 児童課 電話：083-821-4411

ホームページ：http://www.pref-hiroshima.ac.jp/goshicho/kyorokyo/kyorokyoappo/

※本事業は、お問い合わせは無料です。お問い合わせは、広島県教育委員会 児童課 電話：083-821-4411

Eメール：kyorokyo@pref-hiroshima.ac.jp

## 4 キャリア継続支援

### 博士課程後期合格者の入学料不徴収

研究継続を断念した女性研究者の研究活動再開促進の取組として、博士課程後期合格者の入学料を不徴収とする経済的支援の募集を行い、1名に対して入学料不徴収を実施した。また、入学料不徴収実施者8名のうち、休学中の2名を除く6名に面談を実施した。

### キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(広島大学)の採用及び公募

キャリアを中断している博士号を有する女性のキャリア再開支援、及び広島大学に在籍する研究者の配偶者の研究継続・再開・同居をサポートする「キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(CAP研究員)制度」により、フルタイム1名、パートタイム1名を採用した。また、令和5年度採用のCAP研究員の公募を実施した。

	名称	CAP研究員(フルタイム)	CAP研究員(パートタイム)
公 募	対 象 者	キャリア中断中の博士号を有する女性	本学に在籍する研究者の配偶者(性別不問)
	目 的	研究継続を断念した女性研究者の研究活動の再開とキャリア形成を促進すること。(キャリア形成促進型)	配偶者の就職により自身のキャリアを断念した研究者のキャリア継続・再開を促進すること。(両立支援型)
	経 費	学長裁量経費	学長裁量経費
	雇 用 期 間	2023(令和5)年4月から1年間(更新なし)	2023(令和5)年4月から1年間(更新なし)※週10時間以内
採 用	採 用 部 局	大学院人間社会科学研究所(1名)	学術・社会連携室(1名) (6月から)IDEC国際連携機構へ異動
	雇 用 期 間	2022(令和4)年4月から1年間(更新なし)	2022(令和4)年4月から1年間(更新なし)

## 5 男女共同参画セミナー

- テ ー マ / 「普通の性」をとらえなおす ― 身体、ジェンダー、好きの多様性 ―
- 日 時 / 2022(令和4)年11月8日(火) 10:30~12:00
- 場 所 / 広島大学 東広島キャンパス 総合科学部
- 講 師 / 佐倉 智美氏 (ジェンダー&セクシュアリティライター)
- 参 加 者 / 58名(会場: 31名, オンライン: 27名)
- 内 容 / 「LGBT」という語は普及し、「男か女か」に収まらない多様な性のありようについての認識も進んできた。「身体の性別」「心の性別」「性的指向」といった概念が、そうした状況をもたらすのに寄与してきた効果は否定できない。しかし多様な性とは本当にこれらの軸で切り分けることが可能なのだろうか。本講座では、この疑義をベースに性別の本質を解体し直すことを試みる。以て、身体に制約されない自己像の追求や、多面的で複層的な「好き」の多様性を展望し、「普通」に囚われない、すべての人のありのままが尊重される世界をめざすうえでの勘所を整理してみたい。



### 参加者の声(抜粋)

- 性別についての概念が変わった。また、恋愛については「異性、同性関係なく人はみな自分の好みの人を好きになっている」ということばが心に残っている。性について考えるいい機会になった。
- LGBTやSOGIESCなどの言葉はジェンダーを初めて理解するには、その存在を知るのには必要で分かりやすいと思っていたが、我々も当事者という言葉聞いて単純に言葉だけで自身と遠ざけてしまうことの危険性を感じた。
- 今までの自分の知見がくつがえった。とてもよい時間だった。
- 今日のセミナーを通して私たちがいかに固定的な観念に左右されながら生きているのかということに気づかされた。
- ジェンダーや性的指向とか、今まで学んできたよりも、もっと解像度が高く、細かく分解して理解していくような感じでおもしろかった。

# 6 最終総括シンポジウム

- テーマ／～成果と今後～
- 日時／2023(令和5)年2月10日(金) 13:30～16:35
- 場所／オンライン(Zoomウェビナー)
- 参加者／73名(メンバー機関、全国のダイバーシティ事業に携わる機関、本学教職員・学生、一般の方)
- スケジュール／開会挨拶：越智 光夫 広島大学長

来賓挨拶：岡 貴子 氏 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室 室長

## ●基調講演『ダイバーシティの内発化』

原山 優子 氏

特定非営利活動法人(NPO法人)日本科学振興協会代表理事、東北大学名誉教授、前総合科学技術・イノベーション会議常勤議員、元国立研究開発法人理化学研究所常務理事

## ●本事業で支援を受けた女性研究者からの報告

- 清家 美帆 広島大学大学院先進理工系科学研究科 助教(マツダ(株)との共同研究)
- 緒形 ひとみ 広島大学大学院人間社会科学部 准教授(デルタ工業(株)との共同研究)
- 山根 友美 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 助教((一財)国際開発センターとの共同研究)

## ●事業報告「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム」

- 相田 美砂子 広島大学学長特命補佐(研究人材育成担当)
- 江畑 美保 マツダ株式会社人事本部人材開発部人事・組織支援グループ 主幹
- 新川 勉 デルタ工業株式会社 総務部長
- 渡辺 道雄 一般財団法人国際開発センター 代表 理事

## ●第三者終了時評価報告

CAPWR第三者評価委員会委員長 西野 桂子(関西学院大学総合政策学部・総合政策研究科 教授)

## ●講評：山村 康子 氏 科学技術振興機構(JST)プログラムオフィサー

閉会挨拶：フंक カロリン 広島大学副学長(ダイバーシティ担当)

(総合司会：石田 洋子 広島大学副理事(男女共同参画担当))

- 内容／2017年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択された本プログラムは最終年度を迎えた。これまで代表機関である広島大学と、連携機関であるマツダ株式会社、デルタ工業株式会社及び一般財団法人国際

開発センターのほか、地域の官公庁、大学、研究機関、企業等(現在47機関)もメンバー機関として参加いただき、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて取り組んできた。本シンポジウムは、同プログラムの最終総括として、これまでの取組の有効性と持続性を高め、さらに広く普及を図ることを目的として開催した。



〈登壇者〉



## 参加者の声(抜粋)

### 《基調講演について》

- 基調講演、大変興味深くお聞きしました。スウェーデンのあたりまえは印象的でした。ダイバーシティを進めるうえで、大きなヒントがありました。(他大学)
- 世界的な視点での講演は、大変参考になりました。そもそも組織に求められるものとして「異」を挙げられていて、異を資産に変換する力が大事とのこと。本当にそうだと思いました。(企業)

### 《支援を受けた女性研究者からの報告について》

- 企業との共同した点がもう少し知りたかった。(他大学)
- 支援が研究力向上の成果に繋がっていることがわかりました。皆さんのさらなるご活躍をお祈りいたします。(その他)

### 《事業報告について》

- 女性活躍における上司との対話の重要性を再認識した。(企業)
- もっと詳しくお聞きしたいと思いました。ユニークないくつかの取り組みが参考になりました。(他大学)

### 《今回のシンポジウムについて》

- 冒頭基調講演から事業報告、そして講評に至るまで、一つの柱が通ったシンポジウムだと感じました。素晴らしい成果を出された皆さまのご尽力にただただ敬意を表します。できればこの壮大なストーリーを、多くの「意思決定者」にご覧いただきたいと思いました。(大学職員)
- 今後の活動についても継続的に広報願えればと思いますのでよろしく願います。(他大学)